

「自由と平和のための京大有志の会」声明

戦争は、防衛を名目に始まる。戦争は、兵器産業に富をもたらす。戦争は、すぐに制御が効かなくなる。戦争は、始めるよりも終わるほうが難しい。戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。精神は、操作の対象物ではない。生命は、誰かの持ち駒ではない。海は、基地に押しつぶされてはならない。空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。学問は、戦争の武器ではない。学問は、商売の道具ではない。学問は、権力の下僕ではない。生きる場所と考える自由を守り、創るために、私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない。

小さな声こそ平和への希望

安全保障関連法案に反対する京都大の研究者らによる有志の会が7月、声明文を発表した。二つの世界大戦を研究する若手歴史学者らが、なぜ戦争はいけないかをシンプルにつづった言葉は広く共感を呼び、フェイスブックの「いいね」は2万7000件を超す。草稿を書いたのは、「『戦争に行きたくない』は利己的」とツイッターでつぶやいた自民党の武藤貴也衆院議員(36)＝滋賀4区＝と同世代の藤原辰史准教授(38)。3人で始まった活動は国内外の2000人超の賛同者を得ている。(京都支局・森耕一) ②面参照

京大の歴史学者 安保法案反対声明 共感広がる

声明に込めた思いは。国会の議論には戦争への現実感が全くなく、戦争は悲惨だという事実への視点が欠けている。そのごく当たり前のことを言葉にした。世界大戦の研究をしながら学んだことを、骨の部分だけに削り落として表現した。声明を国内外の賛同者が二十一言語に翻訳してくれている。声を上げた理由は。安倍政権は、経済成長や米国の防衛体系に組み込まれていくため、人間の自由を抑制している。私はナチス勃興時に似た抑圧が起き

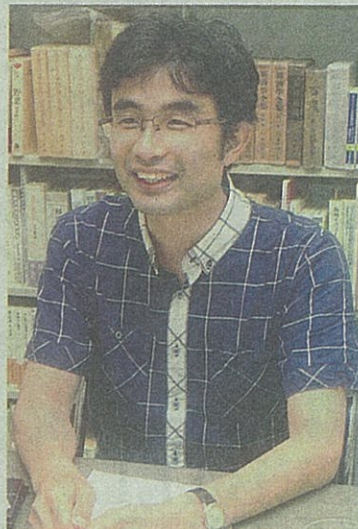
の持ち駒ではない」と書いた。戦争に行くのが当然かのような発言は、命を駒のように見ている。批判された団体の学生とは先月末、大津市内で一緒に街宣活動をしたが、彼らは決して身勝手ではない。政権が勝手に憲法を破壊していることに、勇気をもって反対の声を上げている。彼らは、悲惨な戦争を否定するとうる当たり前のことが通じず、憲法違反の法案に大人が黙っていることに怒っている。参院も与党が多数だ。現状にどう向き合つか。政治家の言葉は上っ面で、首相も原稿を見ないとしゃべれない。言葉が心からわき起こっていない。だが最近、市民が自分たちの言葉でしゃべり始めている。心の中にマグマのようにたぎっていた言葉の生命が、日本中で噴火している。政権は対話を恐れ、狭いサークルの中で気持ちよくなっている一方、私たちは言葉を紡いで対話する。与党の議員は地方から選出されている。地元で失望の声が高まったとき、彼らは耐えられるか。地方の小さな運動が大切だ。小さな声を上げる全国の仲間、「あな

停車中に衝突され 多治見の女性死亡 群馬の上信越道

四日午前一時五十分ごろ、群馬県安中市の上信越自動車道下り線で、大型トラックが路肩に停止中の中型貨物車に衝突し、貨物車に乗っていた岐阜県多治見市平井町六、無職菊池美生子さん(26)が頭などを強く打ち死亡、二十代の男性四人が重軽傷を負った。 県警高速隊は、自動車運転処罰法違反(過失傷害)の疑いで、大型トラックの長野県上田市材木町二、会社員小島進容疑者(26)を現行犯逮捕した。容疑を同法違反の過失致死傷に切り替えて調べる。

高速隊によると、中型貨物車は定員六人で、マイクロバスのような車体にオートバイを四台積んでいた。菊池さんらは岩手県で行われたモトクロスイベントの帰りだった。事故の影響で松井田妙義―碓氷軽井沢インターチェンジ間が約四時間四十五分、通行止めとなった。

ふじはら・たつし 京大人文科学研究所准教授。1976年北海道生まれ。専門は戦時中の農業や食べ物などの研究。著書に「ナチスのキッチン」など。人文研の第1次世界大戦史研究グループにも属し昨年、全4巻の共編著「現代の起点 第一次世界大戦」を刊行した。



「地方の小さな運動が大切だ」と語る藤原辰史准教授＝京都市左京区の京大で

「地方の小さな運動が大切だ」と語る藤原辰史准教授＝京都市左京区の京大で

★池田山遭難の4人救助 岐阜県池田町の池田山(九二四m)であった男女四人の遭難で、県警は四日午後、山中にいた四人を見

第4202回 ナンパズ宝くじ(4日) ※()内は当せん口数
◇ナンバーズ4 9960
◇ストレート 1,140,500円(16)
◇ボックス 95,000円(122)
◇ストレート 617,700円(52)
きんのうの気象 4日
あすの暦 (先負) 旧暦6月22日 潮高=小潮
きよの ぎよの